

第6学年 社会科学学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 公開授業 I

児 童 6年1組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 岩清水 裕行

1 単元名 平和で豊かな暮らしを旨として

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領第6学年の内容(1)のケは、「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること」である。

本教材は、日本国憲法の制定や東京オリンピックの開催・高度経済成長などを調べることを通して、戦後の日本が平和で民主的な国づくりに取り組み、国際社会からの信頼を回復するとともに国民生活を向上させていったことを学んでいくものである。戦後の諸改革や産業・経済の発展という社会的事象を人々の暮らしの変化と関連付けてとらえ、今日の日本と近隣諸国との関係や残された課題について目を向けることで、現在やこれからの社会のあり方について考えることができる。

さらに、この内容は中学社会科歴史分野「現代の日本と世界」の単元に関連・発展していくことのできる教材である。

(2) 児童について

本学級の児童は、社会科の学習に対して意欲的である。これまで、歴史上の人物や代表的な出来事について、それぞれの時代の特徴を大まかにつかむという学習を積み重ねてきた。写真・年表・地図などの基礎的資料を的確に読み取ることができるようになってきている。また、調べたことや考えたことを進んで発言する姿勢が概ね培われている。

しかし、社会的事象の意味をより広い視野からとらえ考えを深めるといふ段階までには至っていない。資料から読み取ったことや自分なりに考えたことを、分かりやすく表現し伝えるということも不十分である。社会的事象の特色や相互の関連に注意しながら資料を適切に読み取ること、読み取った資料を自分なりに解釈を加えていくという力が必要であるといえる。同様に、一方的な意見の言い合いという状態を脱却し論点を明確にしながらか積極的に話し合いを展開していくという姿勢を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、写真資料や体験談・記録文などを多く扱う。それらの資料を読み取る際には、現在の社会の様子と比べる視点を与えながら、当時の状況を実感的・共感的にとらえることができるようにする。また、ペアでの交流・班での発表・全体での発表・ノートにまとめることなど、多様な表現様式で整理し、まとめさせる。読み取った資料を解釈する力を育てるとともに、意見や考えを比較・分類・焦点化するという見方を養うためである。

本単元において行う「見通す」活動は、単位時間の学習課題に対する答えを予想する活動として位置付ける。「予想する」活動は、児童の生活経験に依るところが多くなるが、現在の社会事象や出来事に触れたり、前単元や前単位時間の既習事項を取り上げたりして多面的な考え方ができるように支援していく。

さらに、各単位時間においては、キーワード(重要語句)や文型を使って学習内容を端的にまとめること、それを踏まえ自分なりの感想や考えの変容について書くことに取り組みさせる。単元の終末段階では、各単位時間に書き溜めたまとめを使って、現在やこれからの社会のあり方についての考えを書き表し歴史の学習を帰結させる。これをもって、本単元における「振り返る」活動と位置付ける。

3 単元の目標

- 戦後、人々がどのような社会を旨としていったのかについて関心をもち、積極的に調べようとする。 【関心・意欲・態度】
- 戦後の諸改革や産業・経済の発展と社会や人々の暮らしの変化との関連および国際社会の中での日本のあり方について考え表現することができる。 【思考・判断・表現】
- 日本国憲法や戦後の諸改革の内容および社会や暮らしの変化について、資料から読み取ることができる。 【資料活用の技能】
- 戦後、国民生活が向上したことや日本が平和で民主的な国家を旨としてきたことを理解することができる。 【知識・理解】

4 指導計画 (平和で豊かな暮らしを旨として : 6時間扱い 本時 3/6)

時間	学習活動
1	・戦争が終わったころの暮らしの様子について調べ、人々がどのような社会を旨としたのかを考える。
2	・日本国憲法や戦後の諸改革について調べ、平和で民主的な社会がつくられていったことを理解する。
3	・東京オリンピックの開催に合わせて進められた準備や国内の変化について調べる。(本時)
4	・産業や経済の発展と人々の暮らしの向上をつなげて考え、経済の成長がもたらした変化について読み取る。
5・6	・日本と近隣諸国との間に残された課題を調べ、これからの社会のあり方について考える。

5 本時の指導について

(1) 目標

東京オリンピックの開催に合わせて進められた準備や国内の変化を調べ、オリンピックが開催されたことの意味について考えることができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
思考・判断・表現	東京オリンピックを開催することができた理由について、国際社会への復帰・国民の努力(競技会場や交通機関の整備等)に触れながら説明している。	資料の中から、国際社会への復帰・オリンピック開催のために進められた準備に関連する写真や記述を指し示す。

(3) 指導の構想

展開の場面において、オリンピックを開催することができた理由について予想する。これは、本時の学習課題に対する結果の見通しであり、本時における「見通す」活動である。オリンピックに関する知識や、前時までの学習内容である終戦直後の人々の暮らしの様子を想起させることで、学習への見通しをもたせていきたい。

終末段階においては、「オリンピックにかけた国民の願い」について端的にまとめる活動に取り組みさせる。オリンピックが開催されたことの意味や国内外に与えた影響について理解を深め、本時の学習内容を確認するためである。そのまとめを踏まえ、本時の学習に対する自分なりの感想や考えの変容について書かせることを、本時における「振り返る」活動とする。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入	1. 1964年東京オリンピック開会式の映像を見て大会規模の大きさを考える。 2. 1945年終戦直後の写真を見て戦争による被害の大きさを確認する。 3. 本時の課題を確認する。	個全全	○映像を見せることで注意をひきつけ、分かったことや思ったことを自由に発言させる。 ○会場のにぎわいや人数等に注目させ、国際的な大会であったことを確認する。 ○1964年と比較させ、違いを確認する。 ○終戦から19年でオリンピックを開催したことを確認する。
10分	なぜ、オリンピックを開くことができたのだろう。		
展開	4. オリンピックを開くことができた理由と開催に向けて進められた準備について予想する。 5. 平和条約が結ばれたこと・国際連合への加入が認められたことで、日本が国際社会へ復帰したことを確認する。 6. オリンピックに向けて進められた準備やオリンピックがきっかけで始まったこと、オリンピックによって変化したことを調べる。 7. 東京オリンピックに対する国内外の評価を確認する。 8. オリンピックにかけた国民の願いについて考える。 9. オリンピックを開くことができた理由を考える。	ペア全個全個全全個	☆オリンピックを開催することができた理由について予想し、本時の学習課題に対する結果の見通しをもつ。 ○生活経験や既習事項を踏まえ、多面的な視点から考えさせる。 ○サンフランシスコ平和条約が結ばれたことで日本が独立を回復したこと、国際連合への加入によって日本が国際社会の一員として認められたことを確認する。 ○国際社会への復帰は、開催の一つの要因であることを話す。 ○調べ活動が停滞している場合には、教科書や資料集の中から関連するページや部分を指し示す。 ○「～ということは」「～だから」などの言葉を用いて、調べたことに対して自分なりに解釈を加える発言をさせる。 ○特に、海外の評価を強調することで、オリンピックが成功を収めたととらえられることを話す。 ○「オリンピックを通して～」「オリンピックを成功させて～」などの例を示して考えさせる。 ●【思考・判断・表現】 国際社会への復帰・国民の努力(競技会場準備・交通機関の整備等)に触れながら、オリンピックを開催することができた理由について説明している。(発言・記述・観察)
27分			
終末	10. 本時のまとめと振り返りをする。	個	☆本時の学習を振り返り、自分の学びの評価を行う。
8分	東京オリンピックを開くことができたのは、日本が国際社会に復帰し、国民が新幹線や高速道路などをつくって努力したからである。オリンピックを成功させて、日本が復興したことを示そうとした人々の気持ちを考えることができた。		
	11. 次時の学習内容の見通しをもつ。	全	○オリンピックの開催と経済発展の関連に着目させ意欲をもたせる。